

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題

「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究：イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として」(2018～2020 年度)

2020 年度第 1 回研究会 (通算第 7 回)

日時：5 月 31 日 (日) 14 時–16 時

開催場所：Zoom によるオンライン会議

使用言語：日本語

プログラム：

14:00–15:00 全員 共同研究成果論集計画についての打ち合わせ

15:00–15:30 渡部良子 (AA 研共同研究員, 東京大学) 「Sarih al-Milk データベース作成計画」

15:30–16:00 全員 総合討論

研究会報告

本共同研究第 3 年次・最終年度最初となる本研究会は、共同研究成果のまとめのための最終年度作業計画についての打ち合わせを行った。

まず、3 年間の本共同研究の成果として、サファヴィー朝祖廟・サファヴィー教団名祖聖者廟シャイフ・サフイー廟の歴史に関する新たな研究論集を刊行する計画について、話し合いが行われた。これは本共同研究の成果公開として 2018 年度、2019 年度の 2 回にわたり開催された公開研究会で共同研究員が行なった研究発表を論集化するもので、14 世紀のサファヴィー教団形成・発展期からサファヴィー朝下での繁栄を経て近代に至るサフイー廟の歴史を主にそのワクフ (寄進) 財産の運営に関わる諸史料に焦点を当てて追い、イラン高原におけるイスラーム聖者廟の発展・変容の歴史的背景について多様な視覚から光をあてるものとなる。論集の構想の確認・改善点が話し合われたのち、各共同研究員が各自の論文執筆計画について発表し、取りまとめのための本年度末までのスケジュールの確認を行った。

もう一つの共同研究成果計画が、本共同研究でデータ入力を行った 16 世紀編纂のサフイー廟不動産目録‘Abdi Beg 編 *Şarih al-Milk* イラン国立図書館 3719 写本のデータベース化である。サフイー廟に属した不動産財産のみならず、中世～近世イランの社会・経済・文化に関わる多岐にわたる情報を含む *Şarih al-Milk* のデータから、多分野の研究に裨益するデータベースを構築するには多くの課題・問題がある。本年度はまず一部のデータからサンプルを作成し、今後の全体的なデータベース化に向けて改善法を模索していくという計画が立て

られた。

COVID-19 感染予防対策のため当初の予定より大幅に時間短縮をしたオンライン研究会としての開催となったが、本共同研究の3年間の成果をまとめ、今後の進展へつなげるための方針・展望を確認することができた。

(文責：渡部 良子)